

広島のゼレンスキー：「人民の僕」宣言は一変…

—人民はウクライナ人民ではなかった

May 24, 2023

RT/ Vladimir Kornilov



平和をもたらすという約束で選ばれた大統領が、彼の人民を大砲のエサとして——彼らを利用して代理戦争を戦う外国人部隊に——与えている。

毎年5月には、ウラジミール・ゼレンスキーは、自分が選ばれた通りのものであることを示すために、ショーを行っている。すなわち彼は「人民の僕（しもべ）」だった。これは政治家に変身した、このコメディアン神話の一部で、彼が高位に就く前に、ある TV 番組から借りた役柄である。彼の就任式記念日 5 月 20 日には、毎年、就任一年間の報告という形で、重要なパフォーマンスを行っている。彼は、主人たち、すなわちウクライナの投票者の御用を聞く「召使」の役を演ずる。

・・・ゼレンスキーの世界ではすべてが可能であるように見えたが、彼は一つのことを忘れていた。2 年前、彼が、ウクライナを新しいエデンに作り変えるという話をしたとき、彼は、自分のためにウクライナ人が一票を投じてくれた、大きな約束を忘れていた。すなわち平和をもたらすという約束だ。今、彼が 2019 年 5 月 20 日の就任演説で言った、「人民の僕」という言葉を思い出すのも滑稽なほどである：——「我々の第一の優先項目は [キエフとドンバスの戦争の] 停戦である。…私は平和のために自分の地位を失うことも躊躇しない。」

その後の数年の間、ゼレンスキーは彼の伝統に忠実であった。そして就任記念日には、彼は真の僕として報告をしていた。しかし時間がたつにつれて、彼は、アメリカン・リーダー

ーシップという新しい主人たちを獲得していった。これは非常に重要な変化であり、ゼレンスキーにとって、ウクライナとその人民は、彼の血生臭い冒険を長く支えるものとしての意味しかなく、彼らの未来の安寧福祉は、確実に、彼の計画の一部ではなくなっている。

G7 サミットのための彼の日本訪問は、兵器を手に入れるもう一つの手段である。ウクライナの外交官たちは、西側の報道の一部が、ゼレンスキーの外国旅行を旅のサーカスに例えたとき、非常に怒った。しかしそれが現実である。彼の多くの旅行のポイント全体が、もっと多くの資金を集め、約束を取り付け、戦争を継続させて、ウクライナ人が死に続けるようにすることである。退官したイタリアの将軍マルコ・ベルトリニが、先日、正しく指摘したように、もしウクライナへの西側の兵器補給が止まっていたら、「この戦争は1年前に終わっていて、何十万もの人命の損失はなかったであろう。」

最悪のことは、誰でもそれを十分に理解していることである。EU のトップ外交官ジョゼフ・ボレルは、実質的に同じことを言った。しかし、**キエフに新しい致命的兵器を供給することは、ウクライナ人を大砲のエサにすることだと、たとえ十分にわかっている、西側は供給をし続けているのだ。**もちろん、これら同じウクライナ人たちは、2年前に、「僕」としてのゼレンスキーの約束を知っているが、それは、彼が何人かの新しいご主人を見つける前のことである。

広島はゼレンスキーは、自分の現在のボスたちに、精いっぱい尻尾を振った。特筆すべきは、彼が、自分の F-16 ジェット戦闘機への要求を、「自由になるための翼」に例えたことだ。これは非常に愚かな例えだった——彼が 2 年前に「ムリーヤ」大型輸送機（ソ連製）に翼（夢）を与える約束をしたことを考えるなら。

同じように、昨 12 月に「バフムート（アルチョモフスク）の防衛者たち」による米議会への旗を、彼が受け取ったのも、まずい選択だった。今、アメリカ大統領と共に坐りながら、ゼレンスキーは、彼が長い間「砦」と呼んできたこの都市を失ったことを、説明しなければならなくなった。そしてロシア兵によってそれが完全に占領された、その同じ日に、現在の状況についてナンセンスを並べたてることになった。

彼の反応から、ゼレンスキーにとって、アルチョモフスクを失ったことが、いかに苦痛だったかは明らかだった。それは「アメリカの従僕」が、広島に集まった彼の現在のご主人たちに報告するには、あまりにも予想外のニュースだった。一つだけよかったのは、彼がジョー・バイデンに、別の「砦」からの旗を持って帰らなかったことである。それは凶兆となったであろう。

ドンバスでの屈辱的な敗北の苦い錠剤を甘くするために、このウクライナ大統領は、F-16 ジェット戦闘機を送るという西側の約束を、勝利と言いふらしている。これが現実に見えるか想像してみるとよい。そして誰にも分らないことは、それが世界を、大悲劇の可能性に、どれくらい近づけるかということである。

もちろん広島はおそらく、その結果がどうなるかを考えさせ、どれくらいそれが、この惑星全体に影響を与え得るかを理解させる、最善の場所である。とりわけゼレンスキーが4年前に忠実に仕えることを約束したウクライナの人々に、何を与えるだろうか？ しかし新しいご主人に対する彼の約束は、全く異なったものだ——それは平和でなく戦争を与える。

[訳者 Greatchain 注]

これを昨夜の NHK ニュースのゼレンスキーの扱いに、比べてみるとよい。それは、一刻も早い停戦を求めるものでなく、ウクライナ軍による反撃を求めるものだった。現状がどうなっているかを知らないで(または無視して)、ゼレンスキーの求める通りに兵器を供給し続けるなら、ウクライナとウクライナの人々に、どんな運命が待っているかを、この記事は明らかにしている。この当たり前のことを言わず、悪の根源のロシアを滅ぼしさえすれば、問題は解決するかのように、メディアはずっと言い続けている。もしこういうものを読むことを拒否する方々がおられたら、この強調した部分だけでも読んでいただきたい。

ゼレンスキーの生い立ちと履歴については、これを参照されたい——

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/230228.pdf>